

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 1月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践において、新しい施設における事業所独自の理念を決め、職員と共有し、日々のケアで実践すること。	新築移転した建物や地域性を生かした理念を創る。	平成23年1月度に行う、職員ミーティングにおいて新築移転した施設に即した理念を決定し、実践していく。	2ヶ月
2	6	身体拘束をしないケアの実践において、心身の拘束の意義を理解し、新環境での利用者の反応を確かめながら、施錠をしない方法を職員全員で話し合い工夫していく必要がある。	心身の拘束の意義を理解し、玄関を開錠する方法を職員で考える。	拘束の意義を研修を重ねて周知し、開錠する方法を考えて、施錠しない取り組みを行う。	6ヶ月
3	4	運営推進会議を活かした取り組みにおいて、新しい地域での運営推進会議であり、課題がある。外部評価の活用と、参加者がより意見が表出やすい工夫が求められる。	外部評価の結果をふまえて今後の取り組みや、出席者からの意見をより多く得られるようにする。	平成22年度第6回運営推進会議において、外部評価の結果発表や、今後の取り組みを議題とし、利用者ご家族の個別に意見を伺えるような対策を話し合う。	2ヶ月
4	10	運営に関する利用者、家族など意見の反映において、運営推進会議等の場でも意見・要望を出しやすい環境の工夫が望まれ、アンケートを実施し、その成果を反映することが望まれる。	利用者や、家族に対して個別の要望を伺い、その内容に対して、実行する。	利用者・家族に個別に聞き取りやアンケートを実施し、要望に応える。	6ヶ月
5	20	馴染みの人や場との関係継続の支援において、限られた利用者からのみの援助になっていないか考慮を要し、地域に出向いて馴染みの場所を作る。	地域への外出支援を多くする。	保育園以外に、外出する先を決めて、個別に応じた場所へ行く支援を行う。	6ヶ月
6	49	日常的な外出支援において、散歩や買い物の同行等で事業所外でも過ごせる工夫をする。	日常生活を基本とした、外出の機会を設ける。	食材の買い出し、備品の購入、近隣への散歩の機会を多くしていく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。